

# 国際社会で活躍できる人材の育成を目指して

—— エジプトのゴミ問題を共に学びながら ——

前カイロ日本人学校 教諭

埼玉県川口市立戸塚北小学校 教諭 山村 拓 司

キーワード：在外教育施設、カイロ、教育大臣表敬訪問、総合的な学習の時間、国際理解教育

## 1. はじめに

5千年の時を超えて、古代エジプト人たちの遺したロマン溢れる遺跡の数々を体感できる国、エジプト。しかし、世界有数の観光都市カイロのイメージとはかけ離れた光景が街中に広がっている。カイロの道路にはゴミが溢れており、観光客の多くが「エジプトはゴミだらけの不衛生な国」という悪い印象を強く持って帰国する現状がある。また、日本から編入学してきた子供も同様に感じており、エジプトに対する第1印象は悪い。このゴミ問題はエジプトにとって、大きなマイナスイメージである。

そこで、小学部5・6年生の子供たちと「エジプトのゴミを減らすために日本人の私たちができることは何か」を考え、現地交流校の子供たちと協働しながら「エジプトのゴミを減らすための提言」をまとめた。そして、その提言を教育大臣に直接届けることができた。以下にその概要を紹介したい。



世界遺産 ギザの3大ピラミッド

## 2. 総合的な学習の時間「エジプトを元気にしよう第2弾 ―エジプトのゴミを減らそう大作戦―」

### (1) テーマ決め

カイロ日本人学校小学部5・6年生の総合的な学習の時間は複式で取り組んでおり、5年生3名（男2・女1）、6年生5名（男2・女3）の児童が在籍している。6年生は昨年度、エジプトの政情悪化に伴い、経済を支える観光業が打撃を受けている現状から「エジプトを元気にしたい」という思いで、エジプトの新しいお土産品（ロータスの石けん）を開発し、日本人会主催で行われた春祭りで販売した。そして、収益金の一部をゴミ回収している人たちの自立支援を行っている団体“Sprit of Youth”に寄付した。

そこで、今年度は、お金を寄付するだけでなく、エジプトのゴミを減らすために自分たちにできることはないか考えようと「エジプトのゴミを減らそう大作戦」をテーマに掲げ、学習を進めていくことに決めた。

### (2) 活動内容決め

「自分たちにできることは何か」を話し合わせた結果、「ゴミ問題について学んで得た知識を、交流校の子供たちに伝え、ゴミに対する認識や理解を高めていこう」と、知的貢献を行うという結論に達した。

カイロ日本人学校では、複数の現地校の小・中学生や大学・国際交流基金の学生を招待して「ジャパンデー」や「運動会」等の文化交流を行っている。なかでも、エルウィー校（Elwy Language School）、サッカラ校（Sakkara Language School）の両校に通う子供たちは同年齢なので、そこにターゲットを絞り込み「協働学習をしませんか」と呼びかけた。

両校の先生方から「良い取り組みなので、ぜひやりましょう。いくら指導しても、なかなかゴミのポイ捨てが無くならないので困っていました」と快諾を頂いた。以前、両校に訪問したときに、校舎内にジュースの空き缶やお菓子の袋が散在していた。この国では、学校も公共の場も掃除は清掃員がするもの。だから、学校関係者が

指導しても「ゴミは清掃員が片づけるのになんで私たちが掃除をしなければいけないの」と不思議がったり、なかなか掃除をしたがらなかったりするらしい。

しかし、同じエジプト人でも、モラルの高い人はゴミのポイ捨てをしていない。したがって、両校の子供たちのゴミに対する認識や理解が高まれば、校舎内や地域内のポイ捨てを減らすことができる。そして、その子の家族や地域で暮らす人たちにも、その意識改革の輪が広がっていけば、やがて綺麗な街に生まれ変わることができると信じて、活動を開始することにした。

### (3) 心がけたこと

日本人学校の子供たちが一番心配したのが「エジプト人の子供たちと果たして一緒に学習ができるのか」「私たちの話を真剣に聞いてくれるのか」であった。「エジプト人にとって、日本人の子供たちは外国人である。その外国人から街が汚いから綺麗にしろと言われても聞く耳を持たないのではないか」「エジプトにはゴミ拾いで生計を立てている人がいる」「エジプト人のポイ捨てに対する規範意識が少ないので無理」等の不安な意見が出てきた。そこで、どうすれば話を聞いてくれて共に学習できるのかを、みんなで考え抜いた。

まず、はじめに決めたことは「上から目線にならないように」「共に学んでいく姿勢」といった心構えである。次に、第1回目の交流学習が失敗に終わったら計画が頓挫してしまう可能性があるため「ごみを拾う職業の人がいるのに、なぜ捨ててはいけないの」「捨てないとその人達の収入が減るのでは」といった反対意見が出ることを想定しながら、提案内容には細心の注意を払いながら熟考を重ねた。

提案は、英語とパワーポイントを使って行うことに決めた。交流校の授業は、すべて英語で行われるので、日本人学校の子供たち自らが、英語で発表したいと申し出た。

#### ◇第1回目の発表内容について（簡略版）

##### 1 ニューヨークの奇跡（割れ窓理論）

割れ窓理論にそって犯罪を激減させたことでニューヨーク市の事例を紹介し、1個のポイ捨てが、多くの不法投棄を招き、街全体に無秩序の雰囲気生まれ、犯罪が起りやすくなることを伝えた。

##### 2 世界共通の価値観

ブラジルで行われたサッカー W 杯で、日本代表の試合後に日本人サポーターが観客席のゴミを拾い、リオデジャネイロ州政府から表彰されたこと。エジプトで革命後若者たちがゴミ拾いをして賞賛されたこと。公共の場を綺麗につかうことは世界共通の価値観であることを伝えた。

##### 3 コーラン（イスラム教の経典）の教え

コーランの中に「道を綺麗にするとよいことがある」という教えがあり、これを守りゴミのポイ捨てをなくしていこうと伝えた。

##### 4 テレビ番組「ハワートル『改善』」の視聴

サウジアラビアで放送されているテレビ番組「ハワートル『改善』」は日本の社会の様々な良点を中心に紹介している番組である。今回紹介した映像の前半は、自分たちで教室を清掃する小学生たちの姿が紹介され、後半では、公園のベンチで食事をしている人たちがきちんとゴミを持ち帰る様子や、落としてしまったスナックを全部拾い集める様子など、日本人のモラルの高さにスポットが当てられた作りになっている。日本人の公衆道徳の高さが紹介されている。

##### 5 学校を綺麗に使おう

ゴミのポイ捨てをやめたり、教室や校庭を掃除したりするなど、学校を綺麗に使おうと呼びかけた。

提案後、交流校の子供たちに感想を聞くと反応がよく「これから先も一緒に学習していこう」と、賛同を得ることができた。その後の学習では、校庭のゴミ拾い活動と一緒にいたり、諸外国のゴミ対策の成功例を紹介したりしながら意見交換を行い、ゴミを減らすための提言をまとめ、行政に届けることに決めた。限られた時間の

中での活動であったため、提言の原案は、日本人学校の子供たちが作り、それに対して交流校の子供達が意見やアイデアを出し合いながら加除修正を行い、完成させていった。



交流校との意見交換

#### (4) 教育大臣表敬訪問

12月に教育大臣にお目にかかる機会があり、子供たちの活動の様子をお伝えした。すると、大臣から「日本人学校に訪問し、子供たちに会って話を聞いても良い」と言う返事を頂いた。そこで、交流校から代表者7人ずつを選び、日本人学校の子供と合わせて22人で提言を届けることに決めた。

##### ①ムハンマド教育副大臣来校（2月16日）

大臣訪問前日の15日、「リビアでエジプト人労働者21人を殺害」というニュースが流れた。過激派組織「イスラム国」は、リビアで人質にしていたエジプト人労働者で基督教の一派コプト教徒の21人を殺害したとみられる動画をネットに公開した。エジプトのエル・シーシ大統領は同日夜、国防省、内務省、国軍の幹部を招集した。その影響を受け、教育大臣の日本人学校訪問が中止になり、その代わりに副大臣とギザ市長が来校し、提言を聞いてくださることになった。子供たちは発表中、とても緊張した様子であったが、終わったあとは自分たちが学習してきたことをしっかり伝えることができたこと、充実感にあふれていた。また、教育大臣から「皆さんを教育省に招き、直接提言を聞きたい」とのメッセージが届けられた。

##### ②マフムード教育大臣表敬訪問

23日に教育省を訪問し、マフムード教育大臣に「エジプトのごみを減らす提言」を伝えたり、“Cleaning Song”というオリジナル曲を英語で披露したりした。大臣は「素晴らしい取り組みだ」とお褒めの言葉をくださり、子供たち一人一人と握手をかわしてくださった。子供たちはこれまでの学習のゴールとして、達成感を味わうことができた。また、発表前に教育省内にある教育博物館を見学することができ、エジプトの教育の歴史について学ぶことができた。

#### ◇大臣への発表内容について（簡略版）

##### 1 教育大臣へお願い

###### (1) 教育は人づくり国づくり

- ・公立の全ての学校カリキュラムに環境教育と公衆道徳教育や掃除の時間を取り入れる。
- ・国営放送で環境や公衆道徳の大切さを教え導く、教育番組やコマーシャル（CM）を制作し放送する。

##### 2 政府に伝えてほしいこと（政府へお願い）

###### (1) 罰金制度やぜいたく税の導入

- ・リサイクルに関連する法令をつくる。
- ・レジ袋の有料化やごみの罰金制度、デポジット制を導入する。
- ・ぜいたく税を増やしたり、寄付金を募ったりし、収入を増やす。

これらの収入の一部を環境対策費に充てる。環境対策費の使用目的は、「分別できるゴミステーションをつくる」、「ゴミ回収車の購入」、「ゴミを回収する人の社会的地位と給料を上げる」等、環境にかかる費用に使うものとする。

###### (2) 循環型社会づくり

- ・家庭で不要になったもの（リサイクルできるもの）と食料品を交換できる交換市場を開く。
- ・家庭から出されるゴミを燃やして、電気をつくったり、温水をつくったりできる施設をつくる。
- ・生ゴミを微生物をつかって堆肥にかえる。

### (3) モデル地区の設定

- ・ギザ三大ピラミッドエリアやハンハリーリ市場、オールドカイロなど観光客がたくさん訪れる名所からきれいにし、環境モデル地区をつくっていく。そのエリアでは、ゴミの罰金制度をきちんと守らせ、厳しく取り締まる。
- ・ピラミッドエリアでのラクダや馬のふんは、飼い主が責任を持って掃除する。何度も注意・警告しても聞かない者には、数日間の営業停止を命じ、その間は無償でふんの掃除をさせる。

### (4) お掃除大臣の任命

- ・役人や歌手、俳優、スポーツ選手など国民に人気がある人に、1年間お掃除大臣になってもらう。お掃除大臣は、CMに出演したり、観光地で国民と一緒にゴミを拾ったりしながら、啓発活動を行う。

### (5) その他

- ・2018年にギザのピラミッド博物館が完成予定である。将来、博物館からピラミッドまで遊歩道をつくり、周りにカフェテリアやお土産屋さんなどをつくる。建物は政府が建築し、テナントを募集し家賃をもらい、その一部を環境対策費に充てる。訪れる観光客に対し、リピーターとして繰り返し訪れてみたくなる地域づくりを目指す。

## (5) 広がる輪

同席したギザ市長が、子供たちの取り組みに感銘を受け、日本人学校前から幹線道路までの車道をアスファルト舗装することを決め、現在工事中である。また、学校での取り組みを伝え聞いた、コプト教の信者たちが12月頃から仲間と共に金曜礼拝の後に、教会の周りを掃除するようになった。その活動を知ったギザ市長は、奨励金を支給し、教会の周りの車道を舗装した。この清掃活動の輪は、他教会のコプト教信者の間でも広がりはじめている。

一方、表敬訪問当日、取材に来ていた国営放送局から、活動の様子や「Cleaning Song」を教育番組内で披露してみないかと誘いを受けたが、治安悪化に伴い外出を控えている交流校の保護者から許可が出ず、実現しなかったのは残念であった。

## 3. 終わりに

国際化が一層進展している社会において、世界的視野を持ち、国際社会で活躍する人材が求められている。国際社会で活躍できる人材を育成する上では、相手の意図や考えを的確に理解し、自らの意見を臆することなく論理的に主張できるコミュニケーション能力や、困難な課題に果敢にチャレンジし、様々な文化を背景に持ち多様な価値観を有する人々と協働して解決策を見出していく力を養うことが重要である。今回の取り組みを通して、子供たちにその素地を養わせることができたのではないだろうか。そして、将来社会人として自立し、世界的視野を持ち、地域社会や国際社会において活躍・貢献できる人に育ってほしいと願う。